

実 績 報 告 書

1 事業者名	認定 NPO 法人キーパーソン 21
2 事業名	すぎなみ「わくわくエンジン®」発進プロジェクト
3 実施期間	令和7年 9月 28日～ 令和7年 12月 14日
4 実施場所等	高井戸地域区民センター、永福和泉地域区民センター
5 対象年齢・参加人数	小学5年生～中学2年生 15人 (定員30名 申込者数19名 4名辞退) 高校1～2年生 9名 (定員10名 申込者数12名 3名辞退)
6 参加費	無料
7 内容	本事業は、杉並区在住・在学の小中学生を対象に、「自分の中にある“わくわくして動き出したくなる原動力”（＝わくわくエンジン®）」を発見し、「やってみよう！」を実際の行動につなげることを目的として、全3回の連続プログラムとして実施しました。 また、高校生をサポーターとして育成・配置し、子ども・高校生・大人が関わり合う多世代協働の場を創出しました。 事業全体を通して、子どもたちが自ら考え、選び、動く経験を重ねることで、自己肯定感や主体性の醸成につながることを目指しました。 保護者に対しても事前説明会や座談会を行い、家庭内での対話や見守りにつながることを意図した設計としました。 ●参加者 本プロジェクトの参加者は、63名 (小中高校生、保護者、キーパーソン21スタッフ含む) ●広報・募集活動（6月～9月） 6月から9月にかけて、以下の方法で広報および参加者・ボランティア募集を行いました。 ・チラシ制作・配布、ポスター掲示 ◎小中学生向け：チラシ3,100部／ポスター180部 ◎高校生向け：チラシ2,000部／ポスター100部 ・キーパーソン21および杉並区公式ホームページ掲載 ・杉並区立小中学校保護者向け「テトル お知らせ BOX」配信（7月25日） ・杉並区広報紙（8月15日発行）掲載 ・杉並区広報課公式 X、キーパーソン21 公式 SNS 掲載 ・杉並区立施設（計146か所） 児童館、子ども・子育てプラザ、地域区民センター、コミュニティふらっと図書館、区民集会所、学童、放課後居場所事業、ゆう杉並 等

- ・杉並区内高等学校 全 21 校
- ・区民専用掲示板「でんごんくん」

ボランティア募集協力

- ・杉並区社会福祉協議会（杉並ボランティアセンター）
- ・Qulii（キュリー株式会社）
- ・NP0・ボランティア募集サイト「active」（株式会社 active）

地域・団体からの協力

本事業は、以下の地域団体・事業者の協力・応援を得て実施しました。
宮前青少年育成委員会、杉並区 PTA 協議会、杉並区立久我山小学校 PTA、
サイクルショップバウム、下平米店、ペルレのなか接骨院、
杉並ペディアトリック歯科、Supermama mit tobuhi、
株式会社ヴィリング（ステモン）

① 高校生サポーター養成講座 9 月 28 日（日）13:20～17:30

会場：高井戸地域区民センター 第 3 集会室

- ・対象：杉並区在住・在学の高校生
- ・応募者：12 名
- ・参加者：9 名（欠席 3 名）
- ・KP21 講師・スタッフ：6 名

高校生が「わくわくエンジン®」の考え方を理解し、子どもへの関わり方を学ぶ研修を実施しました。

② 保護者向け事前説明会（オンライン）

10 月 13 日（月・祝）20:00～20:30（Zoom）

- ・対象：参加家庭
- ・参加：4 家庭 4 名（欠席家庭はアーカイブ視聴必須）

内容：キーパーソン 21 の活動紹介、プロジェクトの目的と流れ、期待される効果、保護者へのお願い、保険・LINE オープンチャット運用について説明。

③ 第 1 回プログラム 10 月 19 日（日）13:10～16:30

『「好きなものビンゴ&お仕事マップ」 & 「やってみたい！」を考えよう』

会場：高井戸地域区民センター 第 1・2 集会室 小中学生：15 名

- ・高校生サポーター：8 名
- ・KP21 サポーター（講師含）：12 名

子どもたちが自分の「好き」「気になる」「やってみたい」を仲間や大人とのコミュニケーションによって言語化し、自分が好きなものと社会は繋がっていることを体感するプログラム。わくわくして動きたくなるような原動力「わくわくエンジン®」を発見して、わくわくして「やってみたい！」ことを考えました。

同日、高井戸地域区民センター 第 7 集会室にて、保護者向け説明会・座談会も実施。13:20～14:50（参加保護者 11 名）

内容 ・プロジェクトの全体像

- ・プログラムの流れの説明
- ・子どもの「やってみたい」を応援すること
(ワークシートの読み解き、親ができるアクション、こどもへの声掛け)
- ・皆さんの声を聞かせてください

④ 第2回プログラム 11月24日(月・祝) 9:10~15:00

『やってみたい!の作戦会議』

会場: 高井戸地域区民センター 第3・4集会室

- ・小中学生: 15名
- ・高校生サポーター: 2名
- ・KP21 サポーター: 14名

「やってみたい!」を実現するためには?具体的な行動計画へ落とし込む作戦会議を実施しました。各チームに分かれて、「やる」の実行日のための準備や実際にインタビューしてみる、など出来ることに取り組みました。

⑤ 第3回プログラム 12月14日(日) 9:00~17:00

『やってみたい!をやってみる!』

『やってみたい!をやってみた!の発表会』

会場: 永福和泉地域区民センター 第2・3集会室・料理室

- ・小中学生: 11名(欠席4名)
- ・高校生サポーター: 1名
- ・KP21 サポーター: 13名
- ・保護者: 13名
- ・見学者: 1名

午前~午後にかけて各チームが「やる」を実施し、最後に「やってみた」ことの報告をする発表会を行いました。

●補足実施・フォロー

12月1日 オンライン個別フォロー (Zoom)

体調不良等で十分に参加できなかった子どもに対し、再度「やってみたい!の作戦会議」を実施。

- ・中学生: 1名
- ・KP21 サポーター: 3名

12月13日 Cチーム実施(東京タワーVR バンジージャンプ体験)

- ・小中学生: 5名(欠席1名)
- ・高校生サポーター: 2名(欠席1名)
- ・KP21 サポーター: 2名

●スタッフ会議

5月6日【スタッフ会議 第1回】参加者: 3名

内容: 事業実施に向けた初期打合せを実施。日程の確定、募集チラシの作成方針、配布先の確認、KP21 実施スタッフ募集メッセージの作成、広報準備について検討した。本会議をもとに、募集用チラシの制作を開始した。

	7月21日【スタッフ会議 第2回】参加者：3名 内容：会計担当者を交え、事業実施に関する確認事項の詳細打合せを行った。 あわせて、参加者募集およびスタッフ募集の進め方について協議した。 9月20日【スタッフ会議 第3回】参加者：3名 内容：高校生サポーター養成講座（①）実施に向けた打合せを実施。 9月28日開催の養成講座について、講師との内容確認、当日使用資料の印刷・準備について確認を行った。 9月28日【スタッフ会議 第4回】参加者：3名 内容：第1回実施（③）に向け、参加人数の確定、当日の進行・段取り、グループ分け案の作成、サポーター確保・依頼、全体スケジュールの最終確認を行った。 10月7日【スタッフ会議 第5回】参加者：4名 内容：保護者説明会（②）に向けた準備として、オンライン説明会および10月19日当日実施分の構成について協議。 説明資料の共有、構成・内容の作成および確認を行った。 10月10日【スタッフ会議 第6回】参加者：2名 内容：オンライン保護者説明会（②）の詳細について、実施前ミーティングおよび最終確認を実施。あわせて、第1回実施（③）に向けた打合せ、キックオフ準備、実施要項の作成を行った。 10月19日【スタッフ会議 第7回】参加者：3名 内容：当日の実施を踏まえた振り返りを行い、グループ分けの調整、次回第2回実施（④）に向けた検討、欠席者への対応方針について協議した。 10月21日【スタッフ会議 第8回】参加者：4名 内容：第2回実施（④）に向けたグループ分けの再調整および当日の進行について確認を行った。 11月8日【スタッフ会議 第9回】参加者：3名 内容：11月24日実施（④）およびKP21キックオフミーティング（11月17日開催）に向け、当日の役割分担、進行、運営体制について最終確認を行った。
8 効果	本プログラムを通して、子どもたちは「自分のわくわく（興味・関心）」を言語化し、それを起点に「やってみたいこと」を自分で考え、行動に移す経験を重ねました。 小中学生からは 「自分の夢や好きなことが少し明確になった」 「将来について真剣に考える時間が持てた」

- 「やりたいことに対する不安やためらいがほとんど解消された」
- 「これからは自分の興味があることに積極的に取り組みたい」

といった声が寄せられ、

自分の興味や価値観に気づき、進路や職業への具体的なイメージを持つようになり、“考えるだけ”から“一歩踏み出す”意識の変化が感じられました。

実際に、

- 専門家へのインタビューに自ら質問を準備して臨んだ
- 調べる・描く・作るなど、自分の得意や興味を活かした行動が生まれた
- 「もうけを寄付する」「人に喜んでもらう」など、社会とつながる形での挑戦に踏み出した

といった主体的に学び、具体的な行動が見られています。

保護者からも、

- 「なんでも肯定して聞いてもらえたことが嬉しかったようです」
- 「帰ってくるたびに『楽しかった』と言っていた」
- 「やりたいと言うことがほとんどなかった子が、次は何をするか話すようになった」
- 「家庭で進路や将来について話すきっかけになった」

など、家庭での会話や子どもの様子の変化について多くの声が寄せられ、プログラムでの気づきが日常生活や家庭内の対話にも波及していることが確認できました。

「わくわくしてやってみたいことを考え、行動してみる」体験を通して、子どもたちは

- 自分の気持ちを大切にしていよいこと
- 現実的かどうかよりも「まずやってみていい」こと
- 大人に否定されずに話を聞いてもらえる安心感

を実感し、自分なりの軸や自信を少しずつ育てていく様子が見られました。

また、第三者であるサポーターや高校生との対話により、

- 初対面の大人とも対等に話す力
- 自分の考えを整理し、人に伝える力
- 仲間の意見を尊重しながら協力する姿勢

が自然と育まれていきました。

【高校生サポーターの育成効果】

高校生サポーターにとっても、本プログラムは大きな学びと成長の機会となりました。

多くの高校生が、

- 「最初は緊張していた子が、後半には自分から話してくれるようになった」
- 「“なんで？”ではなく、“どういうとき？”と具体的に聞くことの大切さに気づいた」

	• 「共感の言葉を伝えることで、表情がどんどん明るくなっていくのを感じた」 と振り返っており、相手に寄り添い、対話する力が実体験として身についていく様子が見られました。 また、 • 「将来の夢がないと言っていた子が、自分の好きなことから職業を見つけていった」 • 「やってみたいと言われたときに『いいんだ』と安心して書き始める姿が印象的だった」 • 「待つこと、言葉を変えること、相手のペースに合わせることの大切さを学んだ」 といった声から、教育・支援の視点や関わり方への気づきも多く得られていることがわかります。 さらに、 • 「小中学生と将来について話すのは新鮮で、自分自身の進路を考えるきっかけになった」 • 「子どもたちのわくわくに本気で向き合う大人たちを見て、自分も刺激を受けた」 • 「教育分野を目指す上で大切な原体験になった」 という声もあり、高校生自身の自己肯定感や将来観にも良い影響を与えることができました。 子どもたちの「やってみたい」を支える立場として関わる中で、高校生サポーター自身もまた、「人と関わる楽しさ」「誰かの一步を応援する喜び」「自分のわくわく」に気づく時間となっていました。
--	---

収 支 決 算 書

Ⅰ 収入の部

項目	内容	金額
1 助成金	次世代育成基金活用事業助成金	583,000
2 その他収入	団体負担	2,762
収入合計		585,762

Ⅱ 支出の部

項目	内容	金額		
		単価	数量	計
① 助成対象経費			合計	583,762
(1) 旅費			小計	44,684
	①KP21講師、サポーター交通費（実費精算）延べ44名分	41,124	1	41,124
	②交通費 やってみたい追加実施 延べ7名分	3,560	1	3,560
(2) 謝礼			小計	224,000
	①KP21①養成講座（1級）講師@15000×1名	15,000	1	15,000
	②KP21①養成講座アシスタント@3000（午後）×1名	3,000	1	3,000
	③KP21①養成講座サポーター@1000（午後）×2名	1,000	2	2,000
	④KP21②保護者向け説明会（ZOOM）講師・エバンジェリスト@10000×1名	10,000	1	10,000
	⑤KP21③1回目（1級）講師（導入・保護者説明）@15000×1名	15,000	1	15,000
	⑥KP21③④⑤講師（ファシリテーター）@10000×1名×3回	10,000	3	30,000
	⑦KP21③④⑤講師アシスタント@3000×1名×3回	3,000	3	9,000
	⑧KP21サポーター ③1回目@1000×8名	1,000	8	8,000
	⑨KP21サポーター④⑤2.3回目@2000×21名分	2,000	21	42,000
	⑨KP21サポーター④⑤2.3回目@1000×2名分	1,000	2	2,000
	⑩チラシ作成作業	5,000	1	5,000
	⑪実施要項作成@2000×4回	2,000	4	8,000
	⑫実施報告書作成@5000×3回	5,000	3	15,000
	⑬プロジェクト責任者	30,000	1	30,000
	⑭スタッフ会議10回@1000×延べ30名分	1,000	30	30,000
(3) 印刷費			小計	105,048
	①②参加者募集チラシ（高校ポスター100部・小中ポスター160部・高校チラシ2000部・小中チラシ3100部）	88,110	1	88,110
	③報告書印刷費	16,938	1	16,938
(4) 物品購入費			小計	45,059
	①実施時使用資料費（用紙印刷）	8,385	1	8,385
	②ワークショップ消耗品費	7,216	1	7,216
	③⑤実施3回目実現費用（入場料・材料費等）	24,493	1	24,493
	④事業準備消耗品費	4,965	1	4,965
(5) 役務費			小計	23,371
	①①行事保険@33×12名	33	12	396
	②③行事保険@33×40名	33	40	1,320
	③④行事保険@33×35名	33	35	1,155
	④⑤行事保険@33×40名	33	40	1,320
	⑤チラシ送付料金	12,200	1	12,200
	⑥報告書 郵送料金	5,450	1	5,450

	⑦テキスト送付料金	1,430	1	1,430
	⑧振込手数料	100	1	100
(6) 使用料及び賃借料			小計	23,100
	①❶高校生サポーター養成講座 会場使用料	1,550	1	1,550
	②❸1回目 会場使用料	8,300	1	8,300
	③❷2回目 会場使用料	4,750	1	4,750
	④❹3回目 会場使用料	8,500	1	8,500
(7) その他			小計	118,500
	①「すきなもののビンゴ」プログラム使用料@2500×15名分	2,500	15	37,500
	②サポーター養成講座受講料@9000×9名分	9,000	9	81,000
② 助成対象外経費（その他の経費）			合計	2,000
	実施3回目実現費用のうちVR体験料2名分	2,000	1	2,000
支出合計（総事業経費①＋②）				585,762